



Scientists Supporting Innovation of School Science

NEWSLETTER NO. 5 2008/6/1

NPO 法人 科学技術振興のための教育改革支援計画

<http://utsc2.chem.s.u-tokyo.ac.jp/~inorg/SSISS/index.html>

1. ニュースレターの第5号をお届けします
2. 第4回通常総会が開催されました
3. パネル討論会「SSISSの活動経験を語る」が開催されました
4. 今後の活動の見通し
5. 日本科学教育学会年会での討論会
6. 【連載】理科教育改革のTips(4)

◎ニュースレターの第5号をお届けします。

いよいよ五月雨の季節となりました。SSISS 会員の皆様にはお元気のことと存じます。本号では、5月24日に開催された総会と、引き続いて行われたパネル討論会について報告します。

大木理事長による連載「理科教育のTips」も4回目となりました。ご一読の上、ご意見やご質問がある場合には、理事長宛（アドレス下記）にお送りください。

★ニュースレターに関するその他のご意見やご連絡は編集担当者宛（アドレス下記）にお送りください。

◎第4回通常総会が開催されました。

平成20年度（第4回）通常総会が予定どおり5月24日（土）午後2時から立教池袋中学校・高等学校 センテナルホールで開催されました。当日出席した正会員は17人、ほかに書面による出席者（書面表決者および表決委任者）が57人、合計74人（正会員数108人）でした。

総会では、議事に先立って大木理事長の挨拶があり、本NPOの活動が発足以来着実に拡大している状況などが説明されました。ついで議長に霜田光一会員を選出して審議に入りました。審議の結果、すでに郵送済みの第1号議案、第2号議案とも異議無く満場一致で承認されました。書面投票は全員が賛成でした。（なお、配付資料にミスがあることが指摘され、平成19年度の収支決算書（資料1-2）のⅡ支出の部で管理費のうち消耗品費が62,640となっているが正しくは62,643であると訂正されました。）総会議事録の署名人として、議長の霜田光一氏のほかに、石村巽氏、宇津木和夫氏が選任され、午後2時45分に閉会しました。

◎パネル討論会「SSISSの活動経験を語る」が開催されました

総会に引き続いて午後3時から「SSISSの活動経験を

語る」と題してパネル討論会が開かれました。SSISSとして初めての試みであるこの討論会では次のように3人の方がご自身の活動体験を中心に講演されました。

- (1) 一丸節夫会員 小学校で行った地球温暖化をテーマとする授業
- (2) 宇津木和夫会員 私立中学校・高等学校の科学クラブで行ったクマムシに関する研究の指導
- (3) 神田久生会員 小学校で行ったダイヤモンドをテーマとする授業

講演はそれぞれ個性的で教訓に富むものでした。また、講演後、何人もの参会者から活発な質問や意見が述べられ、今後の教育支援活動やSSISSの活動方針について有益な示唆が与えられました。

パネリストの方々を始め、参加者各位に感謝いたします。また、会場の準備についてお世話くださった館彦史郎会員（立教池袋中学校・高等学校校長）に厚くお礼申し上げます。（司会 高橋景一）

◎今後の活動の見通し

現在、つぎの地区の学校から支援の依頼や問い合わせがあり、打ち合わせなどが進行中です。

東京都 墨田区、稲城市； 大阪府 守口市；
岡山県； 沖縄県； その他

現在のところ、本年度の支援は約50校に対して行われる見通しです。具体的な内容が決まり、会員の皆様のご協力をお願いする際は、その都度ニュースレターでもお知らせいたします。

また、支援要請の可能性のある学校等をご存じの方は、是非大木理事長またはお知り合いの役員までお知らせください。

★NPO東京雑学大学に対する協力

この「大学」は西東京市周辺の高齢者住民を対象にして、教授がボランティア活動として1回2時間特定課題について講演を行う市民大学です。理科教育に対

する関心を深めることを狙いとしてSSISSとして協力することが理事会で決められています。平成20年度は3名のSSISS会員の講義が予定されており、5月22日には砂川一郎理事が講義されました。出席者は約60名で、熱心な質疑応答がありました。

◎日本科学教育学会年会での討論会

前号でお知らせした通り、日本科学教育学会の第32

回年会（8月22日～24日、於岡山理科大学）で、私たちSSISSの活動を中心とした討論会が年会実行委員会企画として開催されます。討論会の日時は大会2日目の8月23日午前9時～11時に決まりました。ご都合のつく方はご出席ください。年会の詳細については下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://certems.shinshu-u.ac.jp/jsse/>

【連載】 理科教育改革の Tips 《4》

理事長 大木 道則

7) 教えなければならないことは教える

いくら教えるのは最小限にしようといっても、子供が思いつく可能性がほとんどゼロで、教えなければならないことについては、教えるしかないと思います。しかし、頭から教えてしまうことは最小限にしたいというのも、私の偽らざる願望です。私は、1960年代にアメリカから、いわゆる「科学教育の現代化」なる運動によってもたらされた、「科学の方法」と言われるものは、「教えなければならない」という例の最たるものではないかと思っています。たとえば、変化量を測定して、その量を、変化させた基本量、いわゆる変数に対してプロットするという整理法です。

しかし、これも、何回かやれば、子供も、そんなものだと思うようになると思います。

8) 頭ごなしに教えたことは、それで放っておかず、その語句なり、語句が利用される場面、あるいはその方法を繰り返し使用することによって、学習者に慣れさせることが大事だと思います。

頭ごなしに「覚えなさい」と言ってしまふよりは、利用を繰り返すという教育は、かなり抵抗が少なく受け入れられるものだという事、覚えておく必要があります。(以下次号) 理事長 大木 道則

理事長へのご連絡は

0354215701@jcom.home.ne.jp へどうぞ。



このニュースレターはSSISS正会員の方々にお送りしています。電子メールを利用される方は下記宛にメールアドレスをお知らせ下さい。

news.ssiss@mbe.nifty.com

ニュースレターについてのご意見やご要望も上記宛にお寄せください。電子メールを利用されない方は編集担当の高橋宛にご意見等をお寄せください。

〒162-0055 東京都新宿区余丁町14-31 高橋景一
電話 03-3358-1555
FAX 03-5379-1755

住所その他の変更は本NPO法人宛にご通知をお願いします。

〒171-0021 東京都豊島区西池袋5丁目16番5号
立教池袋中学校・高等学校内
特定非営利活動法人科学技術振興のための教育改革支援計画 事務所

